資　　料

街路樹１次点検表

様式1

No.1

管理者名	○○　建設管理部　○○○　出張所		
路線名	○○○	樹木番号	○○○
形状寸法	樹高(目測)H＝ 0.0 m　幹周C＝ 0.0 cm	測点	SP＝ ○○○ m
樹種名	○○○○○○	横断区分	○
点検者	○○○建設　○○　○○○	点検日	平成○年○月○日　天候　晴

点検項目		なし	あり
損傷要因	① 開口空洞		
	② キノコ		
	③ 腐朽・枯死		
	④ 揺れ(押して)		
	⑤ 傾き		
	⑥ 枯れている箇所		
	⑦ 大きな傷		
	⑧ 支柱の損傷や食いこみ、結束による損傷		
	⑨その他(視程障害・建築限界・その他要因等)		
［特記事項］			
［健全度評価※］	［2次点検の要否※］		
［緊急作業の必要性］　該当に○		なし	あり
緊急作業の必要性			
剪定の必要性			
［特記事項］			

【あり】の場合は詳細（写真やポンチ絵）

① 全景

② 局部

［特記事項］

※「健全度評価」並びに「２次点検の要否」の判定は、下記のA～Dの評価区分を参照すること。

※「健全度評価」並びに「2次点検の要否」の判定は、維持業者で記入し、道路管理者は確認する。

【健全度評価・２次点検の要否の考え方】

A	異常無(概ね)：上記項目でありに該当のないもの	2次点検無
B	要観察：経過観察が必要なもの　（⑤～⑨が２つまで）	
C	要点検：①～⑨項目で該当がある場合(①～④に○が１つ以上もしくは⑤～⑨が３つ以上)	要2次点検
D	枯死：枯死している場合	緊急作業

街路樹１次点検表

様式1(別紙)

No.

				管理者名	建設管理部		出張所
路線名	○○○○　○○○○線			樹木番号	○○○		
形状寸法	樹高(目測)H＝　○.○　m	幹周C＝　○.○　cm		測点	ＳＰ=　△△△		m
樹種名	○○○○○			横断区分	L		
点検者	○○○建設　○○　□□			点検日	平成○○年○○月○○日	天 候	晴

① 局部	② 局部
特記事項	特記事項
③ 局部	④ 局部
特記事項	特記事項

街路樹専門診断調査カルテ

様式２

２次点検（専門診断(外観)）	診断日	平成　年　月　日	管理者名	○○　建設管理部　○○○　出張所

路線名		点検者		樹木番号	○○○
形状寸法	H=　m　C=　cm　W=　m(根元周　cm)		測点	SP:　m	横断区分	L
樹種名		植栽形態	□ 単独桝　□ 植樹帯　□ 緑地内　□その他	支柱	□ 良好　□なし　□破損
樹高	□ 10m未満　□ 10m以上　□ 20m以上	幹周（胸高）	□ 60cm未満　□ 60cm以上　□ 90cm以上		

外観健全度診断

活力診断

樹勢(枝の伸張量、梢端の枯損、枝の枯損、葉の密度、葉の大きさ、葉色等)	良←　□ 1　□ 2　□ 3　□ 4　□ 5　→不良
樹形(主幹・骨格となる太枝・枝などの枯損及び欠損、枝の密度と配置等)	良←　□ 1　□ 2　□ 3　□ 4　□ 5　→不良
所見：	
活力診断判定	□ 健全か健全に近い　□ 注意すべき被害　□ 著しい被害　□ 不健全

部位診断（損傷状況）

診断項目	根元	幹	骨格となる大枝
樹皮枯死･欠損･腐朽部(範囲長比率)	□ なし □ 1／3未満 □1／3以上	□ なし □ 1／3未満 □ 1／3以上	□ なし □1／3未満 □ 1／3以上
芯に達した開口空洞(周囲長比率)	□ なし □ 1／3未満 □1／3以上	□ なし □ 1／3未満 □ 1／3以上	□ なし □1／3未満 □ 1／3以上
芯に達していない開口空洞(周囲長比率)	□ なし □ 1／3未満 □1／3以上	□ なし □ 1／3未満 □ 1／3以上	□ なし □1／3未満 □ 1／3以上
最大被害部の周囲長比率	被害部幅[　]ｃｍ，周囲長[　]ｃｍ	被害部幅[　]ｃｍ，周囲長[　]ｃｍ	被害部幅[　]ｃｍ，周囲長[　]ｃｍ
枯れ枝(骨格となる大枝)	□ なし □ あり　直径（φ,cm）（　） 枝長・本数（　）	□ なし□ あり　直径（φ,cm）（　） 枝長・本数（　）	□なし □ あり 直径（φ,cm）（　） 枝長・本数（　）
スタブカット	□ なし □ あり　切除可否（　） 長さ・本数（　）	□ なし□ あり　切除可否（　） 長さ・本数（　）	□なし □ あり　切除可否（　） 長さ・本数（　）
キノコ	□ なし □ あり 種名（　）	□ なし□ あり 種名（　）	□なし □ あり 種名（　）
木槌打診(異常音)	□ なし □ あり（　）	□ なし□ あり（　）	□なし □あり（　）
分岐部・付根の異常	□ なし □ あり（　）	□ なし□ あり（　）	□なし □あり（　）
胴枝枯れ性などの病害	□ なし □ あり 病名（　）	□ なし□ あり 病名（　）	□なし □ あり 病名（　）
虫穴・虫フン、ヤニ	□ なし □ あり 種名（　）	□ なし□ あり 種名（　）	□なし □ あり 種名（　）
不自然な樹幹傾斜	□ なし □ あり（　）	(左記項目に関する特記)	
幹を押したときの根元の揺らぎ	□ なし □ あり（　）		
鋼棒貫入異常	□ なし □ あり（　）		
巻き根	□ なし □ あり 切除可否（　）		
ルートカラー	□ 見える □ 見えない（　）		
露出根被害	□ なし □ あり（　）		
建築限界超え	□ なし □ あり（　）		
診断理由			
支柱	□ 処置不要　□ 撤去必要　□ 結束直し必要　□ 再設置が必要（　）		
部位診断判定	根元	幹	骨格となる大枝
Ａ.概ね異常なし(健全か健全に近い)	□	□	□
Ｂ1.要観察(注意すべき被害)	□	□	□
Ｂ２.精密診断が必要（著しい被害）	□	□	□
Ｃ.不健全	□	□	□
判定理由			
外見健全度判定	□ Ａ.健全か健全に近い　□ Ｂ1.注意すべき被害　□ Ｂ２.著しい被害　□ Ｃ.不健全		

診断概要図（姿図・状況図）	立地平面図（位置図・場所がわかるもの）

特記事項

3次点検（専門診断(精密)）

精密診断判定	樹木医		診断日	年　月　日	天候	
	部位(GL　m)	空洞率：○○ %	部位(GL　m)	空洞率：○○ %		
	状況説明					
健全度判定	□ Ａ:健全　□ Ｂ１:健全に近い　□ Ｂ２:概ね健全　□ Ｂ３:不健全に近い　□ Ｃ:不健全					

特記事項

街路樹専門診断調査カルテ

様式2(別紙)

No.

			管理者名	建設管理部　　出張所	
路線名	○○○○　○○○○線		樹木番号	○○○	
形状寸法	樹高(目測)H＝　O.O　m	幹周C＝　O.O　cm	測点	SP=　△△△　m	
樹種名	○○○○○		横断区分	L	
点検者	○○○建設　○○　□□		点検日	平成○○年○○月○○日	天 候　晴

① 局部	② 局部
特記事項	特記事項
③ 局部	④ 局部
特記事項	特記事項

主な街路樹の特性

1.イチイ		
(1) 樹木特性・特徴	・ 北海道は自生地。樹皮は赤褐色で浅く縦溝が入る。 ・ 葉は偏平な線型で、イチイでは扁平状に、変種のキャラではらせん状に互生する。 ・ 雌雄異株で、雌花は緑色、雄花は淡黄色で、4～5 月に葉脈につく。9 月ごろから果実が赤く熟し、甘く食べられる。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長は遅い、耐陰性があるが、日当たりでもよい。 ・ 適潤で、肥沃な深い土壌を好む。土質は比較的選ばない。 ・ 耐寒性あり、耐潮性は中程度、大気汚染にはやや弱い。 ・ 刈込み、剪定に耐える。 ・ 根は深く、広さは中程度、移植は容易である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ スス病、カイガラムシか付きやすく、スス病を併発して真っ黒になりやすい。 ・ ナガチャコガネの幼虫により、根を食害されて枯死することが多い。	
(4)維持管理の注意点	・ イチイの刈り込みは、枝の伸長する初夏から夏に行うと、切り口が褐変して見苦しく、土用芽がまた伸びて見苦しくなる。 ・ 伸びが止まったお盆過ぎに刈り込むと、その後の枝の伸びもなく、見た目も緑で美しい。	

2. マツ類（クロマツ、ヨーロッパクロマツ、ヨーロッパアカマツ）		
(1) 樹木特性・特徴	・アカマツに比べて葉が太く剛直で色も濃く、幹の色・姿が男性的である。潮風に強く、海岸防風林によく使われる。 ・ ヨーロッパクロマツは、東及び南ヨーロッパから西アジアの原産で、枝葉のよく繁った円錐形の樹形であるが、老木では傘型になる。葉は濃緑色で鋭く尖る。 ・ ヨーロッパアカマツは、ヨーロッパ全域からシベリアまで広く分布する。樹皮が赤い点では日本のアカマツに似ているが、葉は青緑色で短く堅い上、ねじれていることで区別できる。若いときは円錐形であるが、年を取ると樹形は不規則になり頂部が平らになる。	
(2) 環境条件への耐性	・クロマツの生長はやや遅い。日当たりを好む陽樹で、耐陰性はない。水はけのよい砂質の深層土であれば土質を選ばない。 耐寒性はあまりなく、札幌では時に寒害を受ける。大気汚染への抵抗力は、マツ類の中では大きい方である。根は深根性で広がりが大きい。成木での移植はやや難しい。 ・ ヨーロッパクロマツの生長は遅い。日当たりの良い所を好むが、耐陰性もある。その他の性質はクロマツに準じる。ヨーロッパアカマツの生長はやや早く、日当たりの良いところを好む。 ・ 土質を選ばす、やせ地や乾燥地やかなりの湿地にも生育する。耐寒性は極めて強いが、雪害に弱い。	
(3) 注意すべき病虫害	・ 近年、本州以南ではマツノマダラカミキリが媒介するマツノザイセンチュウによる大きな被害が報告されているが、まだ本道では報告されていない。 ・ マツノシンクイムシ、マツカレハ、葉ふるい病、さび病など。	
(4)維持管理の注意点	・ 剪定の時期は必ず夏季(6～8 月)とし、樹液の止まる休眠期には、剪定は絶対に行ってはならない。	

3. トウヒ類（アカエゾマツ、ヨーロッパトウヒ、プンゲンストウヒ）		
(1) 樹木特性・特徴	・ アカエゾマツは北海道原産で、エゾマツとともに「北海道の木」に指定されている。樹形は円錐形にまとまり、若木は端正、老木では豪壮な感じで大木になる。 葉は暗緑色で短く、落ち着いた雰囲気を持っている。 ・ ヨーロッパトウヒは、主にスカンジナビアとアルプスに分布している。樹形は円錐形で樹皮は褐色であるが、老木になると灰色ないしは紅褐色に変わり、うろこ状に厚くはげる。雌雄同株で、5月頃、雌花、雄花とも当り位枝の先につく。10 月頃円筒状の果実が熟す。 ・ プンゲンストウヒは北米中部地方原産で、太い針状葉を持ち、堅い感じの円錐状の樹形はすっきりとして目立つ。 原種の葉は普通の青緑色であるが、葉が青白色になる園芸品種が多用され、新芽時に上品な印象を与える。	
(2) 環境条件への耐性	・ いずれも生長はやや早く、陽樹であるが、耐陰性もややある。 ・ トウヒ類は適潤地～やや湿気のある土地を好むが、土質に対する適応力が広く、湿地、乾燥地でも耐えることができるが、その際はできるだけ小さい苗から育てる必要がある。 ・ 耐寒性、耐雪性あり、耐潮性はあまりない、大気汚染にやや弱い。 ・ 根は浅根性で広がりは大きい。若木以外では移植は難しい。	
(3) 注意すべき病虫害	・ マツケムシにより葉が食害を受けることがあり、たちまち丸坊主になってしまうので、特に注意が必要である。 ・ アカエゾマツは、道路空間に植えると乾燥のためハダニの被害を受けて葉が黄変してしまうことが多く、本来の丈夫さを発揮できないことが多い。 ・ がんしゅ病、胴枯病、てんぐ巣病やアブラムシ類、ハバチ類、コガネムシ類など。	
(4)維持管理の注意点	・ トウヒ類は、基本的に自然樹形のまま育てるものである。	

4. イチョウ		
(1) 樹木特性・特徴	・ 中国原産で、生きた化石として知られている。古くからわが国にもたらされ、主に神社仏閣に植栽されてきた。葉の形から広葉樹扱いされるが、あくまで裸子植物であり、針葉樹と同じ性質を受け継いでいる。 ・ イチョウは病害虫もつきづらく、幹に腐れが入ることもない極めて丈夫な樹木であり、また極めて長命な樹木としても知られている。 ・ 自然樹形では、太い枝が真直ぐな幹から斜上して特有の広い円錐樹形となり、樹齢を重ねるに従って幹や枝が太り、重厚さが増して雄大な姿となる。 また果実の外種皮は黄色、内種皮は白色で、銀杏(ぎんなん)として食べることができる。 ・ 雌雄異株で、まれに雌木が混じって果実(銀杏)を着けるが、悪臭があるので地先の人には嫌われる。	
(2) 環境条件への耐性	・ 陽樹で日当たりを好み、生長は早い。 ・ 適潤の深層地が良いが、やや乾燥地でも耐え、環境に対する適応力がある。 ・ 排気ガスなどの公害に強く、生長も早い。 ・ 耐火性、耐炎性はあり、大気汚染にも強い。耐寒性、耐雪性はややあるが、耐潮性はあまりない。 ・ 根は深根性で、広がりは中程度であり、移植は極めて容易である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ クリケムシ、シラタガロウなどの毛虫類の食害を受けことがあるので、発見次第処置する。 ・ このほかでは、カイガラムシ類、クスサン、がんしゅ病、胴枯病、紫紋羽病、斑点病、葉枯病などであるが、極めて稀である。	
(4)維持管理の注意点	・ 芯止めを行うと、その後代替えの芯が何本も立ち上がってくるので、早いうちに1本を残さないと樹形が崩れてしまう。	

5.アオダモ		
(1) 樹木特性・特徴	・ 花は 6 月頃咲き、白色の小花を密生させて美しい。 ・ 雌雄異株であり、雌株には翼のある果実がびっしりついて、特徴的である。 ・ 材は堅く、木目はち密で美しいので、床材や家具、スキーなどに利用され、特にバット材として有名である。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長は中程度、陽樹で、日当たりの良いところを好む。 ・ 適潤な肥沃地が良いが、火山性土や岩壁上などのやせ地にも生育する。 ・ 耐寒性、耐雪性、耐乾性あり、大気汚染への抵抗力は普通である。 ・ 根は深根性で、広がりは中程度、移植の難易は中程度である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ 特徴的なものはない。	
(4)維持管理の注意点	・ 自然樹形で最も整った樹形をしていることから、無闇な剪定は不要である。 ・ 枝の先端に花芽を付けるので、夏以降の剪定は花芽を切除することになる。	

6.アカナラ		
(1) 樹木特性・特徴	・ 北米東部から中部にかけて広く分布し、大きくなると 45mにも達するといわれる。 ・ 幹は真っ直ぐで、灰色の平滑な樹皮を持っている。 ・ 葉は大きく、鋭角な切れ込みがあり、濃い緑で艶がある。紅葉は遅いが、在来樹種が落ちる頃に真っ赤に色づいてよく目立つ。 ・ 大きくなるとドングリが大量に成るために、道路を汚すことがある。	
(2) 環境条件への耐性	・ 耐寒性、耐雪性、耐風性は強い。 ・ 水はけのよい肥沃な土壌を好むが、あまり土地を選ばずによく育つ。	
(3) 注意すべき病虫害	・ 葉にうどんこ病がつく程度であまり心配がない。	
(4)維持管理の注意点	・ 樹勢が大変強く、病虫害の心配もなく、剪定にも十分耐えるけれども、街路樹として維持するには手間がかかりすぎるものと考えられる。 ・ ある程度放任できる郊外の広幅員街路や、幅の広い中央分離帯などに適している樹種である。	

7.アズキナシ		
(1) 樹木特性・特徴	・ ナナカマドと同じ仲間であるが、外観はあまり似ていない。和名は果実が小豆に似た梨の意味であり、果実は落葉後も枝に残り、小鳥の餌になる。 ・ 観賞として、樹形、花、果実であるが、ナナカマドに比べれば地味である。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長はやや早く、中庸～陽樹で、日当たりの良いほうが生育良好である。 ・ 肥沃な適潤～弱乾燥地を好むが、低湿地以外では生育する。 ・ 耐乾性あり、耐寒性、耐雪性あり ・ 土質は壌土～埴質壌土が良いが、適応力はある。 ・ 根は浅根性で、広がりは大きい、移植の難易は中程度である。 ・ ナナカマドと同属であるが、幹ははるかに丈夫で、胴枯れによって腐朽することが少ない。	
(3) 注意すべき病虫害	・ 葉裏にダニやアブラムシがつきやすく、スス病を併発して見苦しくなることがある。 ・ 幹にカイガラムシがつき、同様にスス病が発生して黒く汚れてしまうことがある。	
(4)維持管理の注意点	・ 基本的に剪定は好まないので、軽い整枝程度にとどめる。 ・ ナナカマドより丈夫ではあるが、バラ科樹種であることには変わらず、決して長命な樹種ではないことを念頭におく必要がある。	

8.イタヤカエデ		
(1) 樹木特性・特徴	・ 北海道の森林の中に普通に生えている。太い枝を出し、大きく広がった樹冠となる。雌雄同株で 4～5 月に葉が開くと同時に黄緑の花をつける。9 月頃に果実が熟し、冬にかけて、二又の翅で風にのって回りながら落下する。葉は手のひら形をしていて秋には落葉する。 ・ 近縁のアカイタヤと混じって植えられることが多く、樹形的にはややアカイタヤの方が整っている。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長は早く、中庸～陽樹であり、肥沃な深層土を好み、低湿地、過乾燥地は嫌う。 ・ 耐寒性があり、耐潮性はややあり、大気汚染に対しては普通である。 ・ 根は浅根性で、広がりは中程度で移植の難易は中程度である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ カイガラムシ類、イラガ類、カミキリムシ、うどんこ病、胴枯病、紫紋羽病、萎縮病、黒脂病などである。	
(4)維持管理の注意点	・ 樹液の流動が始まるのが早く、3 月以降の剪定は枝枯れの原因となるので避けなければならない。	

9.イヌエンジュ		
(1) 樹木特性・特徴	・ 俗にエンジュと呼ばれるが、本当のエンジュは中国原産の別属の木で、道内にはほとんど見られない。 ・ 観賞対象としては、樹形、花(白色の蝶花で 7 月頃開花)、芽吹き(銀白色で美しい)などであるが、在来種の中では最も遅く展葉する樹木である	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長はやや早く、陽樹で肥沃な深層土を好む傾向があり、日当たりの良いところなら土質を選ばず育つ。 ・ 耐寒性、耐雪性あり。 ・ 根は中間性で、広がりは大きい、移植の難易は中程度である	
(3) 注意すべき病虫害	・ アブラムシ類、カイガラムシ、クワイガラムシ、たんそ病、などである。 ・ キジラミの発生が多いと、排泄物が樹下に垂れてべとべとになり、苦情の原因となる。	
(4)維持管理の注意点	・ 剪定では、癖の強い曲がった枝を取り除き、素直に伸びた枝を残しながら自然樹形に誘導することを心掛ける。	

10. エゾヤマザクラ		
(1) 樹木特性・特徴	・ 北海道の山地、丘陵、川沿いなどに普通に生えている。 ・ 樹皮は暗褐色で、老木は縦に割れ目が入る。 ・ 花は両性花で淡い紅色、5 月はじめに葉といっしょに開く。果実は 8 月頃に熟し、黒い色になる。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長は早く、日当たりを好み、耐陰性はない。 ・ 適潤な肥沃地を好み、極端な乾燥地、湿地は好まない。 ・ 耐寒性、耐雪性あり。 ・ 根は浅根性で、広がりは中程度、移植の難易は中程度である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ 主にてんぐ巣病、コブ病、コスカシバなどに注意する。 ・ このほかうどんこ病、胴枯病、紫紋羽病、がんしゅ病、褐斑病、こうやく病、カイガラムシ類、アブラムシ類、イラガ類、コガネムシ類、カミキリムシ、ハシノキハムシなど、病虫害の被害を受けやすい。 ・ 特に近年市内ではコブ病による被害が目立ち、次々と枯死する株が続出している。	
(4) 維持管理の注意点	・ 切り口から病気にかかりやすいために剪定を好まない樹種であり、自然樹形で育てるものである。 ・ 都市内の厳しい環境下では様々な傷から病気にかかりやすく、植栽への要望の高い樹種ではあるが、維持管理面からは厳しい状況にある。	

11. カツラ		
(1) 樹木特性・特徴	・ 北海道では中央部から南西部にかけて多く、肥沃な平地やなだらかな山裾などに自生している。 ・ 幹は真っ直ぐになるが、数本集まって株状になることも多い。樹皮は帯灰褐色で深い縦溝がつく。 ・ 葉は心臓形できれいに対生する。雄花と雌花は開葉前に、別々の木の枝に咲く。果実は小さなバナナ型をしており秋に熟す。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長は早く、中庸樹～陽樹である。 ・ 肥沃なやや湿った土地を好む。乾燥が激しいと、葉縁が枯れ込み、更に乾燥すると枝先の葉を残して落葉することがある。 ・ 耐寒性、耐雪性あるが、潮害、大気汚染にやや弱い。 ・ 根は深根性で、広がりは小さい、移植は容易である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ 葉裏にフシダニが寄生して赤いコブを作ることがあり、見た目が著しく悪くなる。 ・ 同様にハダニやアブラムシもつきやすい木である。	
(4) 維持管理の注意点	・ 自然樹形の美しい樹種であり、基本的には無剪定で対応する。 ・ 樹高はかなり高くなるので、空間的な制約のある場所に植えられているものでは、完全に放任はできず、剪定によるコントロールが必要になる。	

12.キタコブシ		
(1) 樹木特性・特徴	・ 北海道では山の斜面や川沿などに普通に生えている。幹は直立し、枝が多い。花は両性花で 4～5 月に枝先につき、直径 10cm と大きい。 ・ 果実はいびつな円柱形で、9 月頃赤く熟す。 ・ 春早く、ほかの樹々の葉の芽がやっと萌え出そうというところに、いち早く白い花を咲かせ、北海道の春を告げる。 ・ ハクモクレンは中国原産の庭園樹で、キタコブシより花つきがよく、花も大きい。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長はやや早く、中庸～やや陽樹、日当たりの良いところのほうが、花つき生育は良い。近年隔年での開花の傾向が強い。 ・ 適潤～やや湿気のあるところを好む。 ・ 耐寒性、耐雪性あり、耐風性、耐潮性はあまりない。 ・ 根は中間性で、広がりは大きい、移植は難である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ 病害虫はつきにくい木であるが、テッポウムシの被害を受けることがある。 ・ カイガラムシが着きやすく、スス病を併発して樹皮が真っ黒になってしまう。	
(4)維持管理の注意点	・ 樹形は広円錐形で整っており、ある程度生長すると伸びが少なくなるので、維持管理上は容易な樹種である。 ・ 花が咲かないと価値のない樹種だけに、剪定を極力少なくして花芽をつける必要がある。う。	

13. サトザクラ(ヤエザクラ)		
(1) 樹木特性・特徴	・ サトザクラは平安時代からの人為的な交配や野生のものから選抜育種などによる 200 以上の園芸種の総称であり、オオシマザクラ系の品種が最も多い。 ・ 多くの品種があり植栽ゾーンも異なるが、関山（かんざん）、普現象（ふげんぞう）、一葉（いちよう）などのオオシマザクラ系統の品種は樹勢も強く、街路樹に向く。	
(2) 環境条件への耐性	・ 水はけのよい肥沃な土壌を好む。 ・ 耐寒性は札幌市内であれば特に問題はない。 ・ 耐風性、耐潮性はエゾヤマザクラよりは強いが、決して強い方ではない。	
(3) 注意すべき病虫害	・ 病虫害が多く、テング巣病は見つけ次第切除する。 ・ 害虫ではコスカシバなどに特に注意が必要である。このほかうどんこ病、胴枯病、紫紋羽病、がんしゅ病、褐斑病、こうやく病、カイガラムシ類、アブラムシ類、イラガ類、コガネムシ類、カミキリムシ、ハシノキハムシなどである。	
(4)維持管理の注意点	・ 初期生育は早く、徒長枝気味に勢いのある枝を斜めに伸していく。 肥大生長が早く、初期の結束直しは手遅れのないように行う。 ・ 勢いのよい新梢が伸びてくれば、支柱は撤去可能である。 ・ 枝の分岐が下から始まるため、歩道側に支障枝が発生しやすく、早めに付け根から切除しておかなければならない。やむを得ず「枝抜」をするような場合には必ず切り口の防腐処理を行う。	

14. シダレヤナギ		
(1) 樹木特性・特徴	・ 春の芽吹きは街路樹の中でも最も早い部類で、桜の開花に入り交じり、春の訪れを一番に感じさせてくれる。 ・ 本来大木になる木であるが、幹に腐れが入りやすいため寿命は短い。 ・ 本来深根性であるが、街路樹では根張りが浅く、風倒の被害を受けやすい。 ・ 剪定の手間などに費用がかかる上に、近年気象害による枯死が多く、街路樹としての利用は少なくなっている。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長は非常に早く、日当たりを好み、耐陰性はない。 ・ やや湿気のある肥沃地を好むが、水湿に耐えよく生育し、乾燥気味のところでもよく生育する。また土質は比較的選ばない。 ・ 耐寒性はかなり強い方であるが、耐風性はあまりない。 ・ 根は本来深根性であるが、根の広がりは小さく、若木での移植は容易である。	
(3) 注意すべき病虫害	・害虫はカイガラムシ類、アブラムシ類、コガ ネムシ類、ハムシ類、クワカミキリやうどんこ病、さび病、とうそう病、たんそ病、すす病などである。	
(4)維持管理の注意点	樹液の流動が早いので、3月以降に剪定はしない方がよい。	

15. シナノキ類（オオバボダイジュ、シナノキ）		
(1) 樹木特性・特徴	・ 北海道で普通に見られる木で、肥沃な川沿や山の斜面などに多く生える。太い枝を低い所から出すことが多く、樹皮は灰褐色で縦長の浅い溝がある。 ・ 花は両性花で 7 月から 8 月にかけて咲き、10 月ごろ果実が成熟する。また花は蜜源として有名である。 ・ 自然樹形は広卵形で整っており、一級品の街路樹である。 ・ 葉が大きな近縁種のオオバボダイジュ（別名アオジナ）と一緒に使われることが多く、通常約１／３程度はオオバボダイジュが混じっていることがある。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長はやや早い、陽樹性であるが、多少の日陰地でも生育する。 少し湿った肥沃地を好むが、土質は選ばない。 ・ 耐寒性、耐雪性、耐風性、耐潮性あり、大気汚染には普通程度である。 ・ 根は浅根性で、広がりは中程度、移植は容易である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ 葉の裏にアブラムシやハダニがつきやすく、これらの分泌物がベタベタと落ちてくることがある。 ・ またスス病を誘発して、黒く汚れてしまうことがある。	
(4)維持管理の注意点	・ 基本的には無剪定で対応すべきであり、剪定する場合にも、広卵形の樹形の維持が最低限必要である。	

16. シラカバ		
(1) 樹木特性・特徴	・ 生長が早いこと、白い幹が特徴的なことから、庭園、公園を問わず幅広く用いられてきた。しかし、生長がよすぎることから、庭園などでは邪魔になることが多く、無惨に頭を切られてしまうことが多い。 ・ 道路環境では、排気ガスに弱いこと、材がもろく、すぐに腐れが入ってしまうことなどの理由で、それほど永続性のあるものとはならない。 ・ 近年では、花粉症の問題も起きている。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長は早く、日当たりを好み、耐陰性はない。 ・ 適潤～やや湿潤で肥沃な深い土壌を好み、極端な乾燥地、低湿地は嫌う。 ・ 耐寒性、耐雪性、耐風性はあるが、大気汚染に弱く、幹が黒ずんでしまって本来の良さを発揮出来なくなってしまい、都市環境にはあまり向かない。 ・ 根は深根性で、広がりは中程度、ある程度大きくなると移植は難しくなる。	
(3) 注意すべき病虫害	・ カミキリムシの幼虫(テッポウムシ)の被害が発生しやすい。 ・ このほかハンノキハムシ、褐斑病、うどんこ病、胴枯病、てんぐ巣病などである。	
(4)維持管理の注意点	・ 樹液の流動が早いので、3月以降に剪定はしない方がよい。	

17. シンジュ		
(1) 樹木特性・特徴	・ 中国原産だが、日本の気候に適応し、各地で野生化している。樹皮は暗灰色で太くなると浅い縦溝ができる。葉は 6～12 対の小葉からなり、臭いがある。 ・ 雄花と雌花は別々木の先につき、緑白色の小さな花が 6 月頃開花する。果実は 9 月頃褐色に成熟し薄い翼を持っている。 ・ 緑量のあるのびやかな葉が風にそよぐ様子、秋の淡紅葉に色づく果実が独特な風情を醸す。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長は早く、陽樹で、日当たりの良い所を好む。 ・ 土質を選ばす、よく生育する(特に低湿地にも良好に生育するので、樹木が育ちにくい地下水の高い埋立地などには適する)。 ・ 耐寒性、大気汚染に強く、耐煙性もある。 ・ 根は深さ、広がりとも中程度、移植は容易である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ ケムシの食害を受けることがある。うどんこ病など。	
(4)維持管理の注意点	・ 極めて性質が強健な樹種であり、生育が旺盛なためにかつてはよく植えられたが、生長の良さがあだになり、最近では植えられなくなっている。 ・ 剪定には十分耐えることや、放任すると樹幹の肥大生長が激しく、株元の舗装などを壊すことから、剪定により樹勢をコントロールすることが必要である。	

18. セイヨウヤマハンノキ（グルチノーザハンノキ）		
(1) 樹木特性・特徴	・ 葉は稍円形、倒卵形、円頭、円脚、不正鋸歯、下面はほとんど無毛である。 ・ 欧州ではイギリスをはじめとして各国にあり、砂防、護岸用樹としている。 ・ アジア、アメリカ各地にも産して、変種も多い。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長は大変早く、陽樹である。 ・ 極めて強健な樹種であり、場所を選ばずに生育が可能である。 ・ 耐寒性、耐雪性、耐干性などに強いが、潮害にはやや弱い。 ・ 根は浅根性で、広がりは大きい。移植は容易である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ カミキリムシの幼虫(テッポウムシ)の被害を受けることがある。 ・ このほかハンノキハムシ、褐斑病、うどんこ病、胴枯病、てんぐ巣病などである。	
(4)維持管理の注意点	・ 木の性質としてはシラカンバやヤマハンノキなどと同じで、極めて強健で、剪定にもよく耐える。 ・ しかしながら、木の寿命は長くない。	

19. トチノキ（ベニバナトチノキ）		
(1) 樹木特性・特徴	・ 主として谷筋の肥沃な環境の所に生える木で道内では西南部に自生がある。 ・ 樹形が整っていること、花(6 月に咲き、白色に帯紅色のぼかしがある)が美しいこと、クリによく似た丸い大きな実がなることなどの特徴から、街路樹や公園樹として利用されている。 ・ 素直な幹立ちと、太く粗い枝の、力強くスッキリとした雄大な樹形が特徴で、七葉の掌状の葉が面白く、大きな芽を割って展開する春先のみずみずしい姿も魅力である。 ・ 実が落下して車に傷をつけることがあり、実を成らさないように剪定して、樹形を崩している例が多い。 ・ ベニバナトチノキは交配によって作り出された樹木で、通常トチノキに高接ぎされた苗木が植えられる。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長はやや早い、陰樹だが、陽向地でも良く育つ。 ・ 多少湿り気のある肥沃な深層土を好み、乾燥地を嫌う。 ・ 耐寒性、耐潮性ややあり、耐雪性あり、大気汚染には中程度である。 ・ 根は深根性で、広がりは小さい、移植は中程度である。 ・ 冷涼で空中湿度が多く、適潤で肥沃な山地に生育するだけに、暖地や空気や土地の乾燥する地域では葉先が萎縮して生育が悪い。	
(3) 注意すべき病虫害	・ クリケムシ、紅斑性がんしゅ病など。	
(4)維持管理の注意点	・ ベニバナトチノキはトチノキを台木にして接ぎ木されており、油断すると台芽が伸びてやがてトチノキに化けてしまうことがある。 ・ 台芽かきを怠らないことはもちろん、むやみな剪定など樹勢を弱らせないことが大切である。	

20. ナナカマド		
(1) 樹木特性・特徴	・天然林では直径 50cm 以上の大木を見ることもできるが、町中ではそれほど大きくはならない。バラ科樹木の特徴として、材に腐乱病が侵入して胴枯れを起しやすく、寿命がかなり短かくなるためである。 ・平滑な幹に、分岐の少ない枝を長く伸ばした円に近いほうき状の樹形が優しさを感じさせ、北国を代表する街路樹として人気がある。土地も選ばず丈夫で生長も早いが、暖地では樹勢も悪く紅葉や実のつきも悪くなるといわれている。 ・落葉広葉樹の中では、最も早く展葉して緑の樹冠を形成する。 ・燃えるような紅葉と、房なりの真っ赤な果実は北国ならではの季節感を感じさせる。また花は白色で、5 月～6 月に開花する。	
(2) 環境条件への耐性	・中庸樹であるが、日当たりがよい方が生育はよい。 ・適潤で肥沃な深層土を好むが、普通の土壌であれば健全に育つ。 ・耐寒性、耐雪性は強いが、耐風性にはやや劣り、風衝樹形となりやすい。 ・根は浅根性で、広がりは大きい、移植はやや難。 ・生長は早い。	
(3) 注意すべき病虫害	・北国では病虫害による被害は少ないが、暖地ではテッポウムシ(コウモリガの幼虫)などの被害を受けやすいといわれる。 ・胴枯れ病を誘発することが多く、市内での寿命は年々短くなってきている。	
(4)維持管理の注意点	・ 強い「切詰」は厳禁で、弱めの「切返」による枝抜きに限る(基本的には剪定は行わない)。強い剪定を行うと樹勢が衰え、この樹の魅力である優美な樹形が乱れる。やむを得ず剪定する場合には冬期剪定とする。 ・ 剪定による切断面などから胴枯菌などの病気が侵入しやすいので、鋸による切断面には癒合剤などを必ず塗布する。 ・ 生育初期には樹形が不揃いになりやすい樹木であるが、萌芽力が小さく、胴枯れなどにかかりやすいので、極力自然樹形を原則とする。	

21. ニセアカシア		
(1) 樹木特性・特徴	・枝が折れやすく、強風で倒れやすい、虫がつきやすい、枝が暴れるなど苦情が集中する傾向がある。 ・ 観賞としては花、樹形であり、花は蝶形をした白色で、6 月中～下旬開花する。	
(2) 環境条件への耐性	・ 日当たりを好み、耐陰性はあまりない。 ・ 土質は選ばず､痩せ地･せき悪地にもよく生育するが､低湿地より乾燥地のほうが良い。 ・ 耐寒性、耐潮性があり大気汚染にも強い、しかし風害には弱い。生長は早いが、都市環境下では寿命が短く、腐れも入りやすい。 根は浅根性で、広がりは大きいが、移植は容易である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ テッポウムシの被害が主なもので、発生期の見回り点検による早期の処理が肝要である。 ・ このほかアブラムシ、カイガラムシ、クワカミキリなどで、病気としては、胴枯病、たんそ病などが挙げられる	
(4)維持管理の注意点	・ 生長が早く、放任すると受風面積が多くなって風倒の被害が発生しやすくなるため、しっかりとした骨格作りと、不要な枝の透かしを行って、樹形をコントロールすることが大切である。 ・ 街路樹としての寿命は短いものと考え、老齢木のチェックをしっかり行って、危険なものは速やかに更新する必要である。	

22. ネグンドカエデ		
(1) 樹木特性・特徴	・ 北アメリカ原産であり、・ 葉はカエデの仲間には珍しく 3～7 枚の小葉からなり、トネリコ(タモの仲間)の葉に似ていることから別名の名前が生まれた。 ・ 雌雄異株で、5 月頃、黄緑色の花が葉より早く垂れ下がって咲く。果実は 9 月頃に熟す。 ・ 生長が早く、枝の伸びは良いが、風で折れやすいという欠点がある。 根張りが弱く、傾斜木になりやすい。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長は早い、陽樹だが、半日陰地にも耐える。 ・ 土質は選ばないが、多少湿り気のあるところを好み、過乾燥地には適さない。 ・ 耐寒性、耐風性あり、大気汚染に対しては中程度である。 ・ 根は浅根性で、広がりは小さい。移植の難易は中程度である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ 夏の終わり頃から葉が真っ白になるうどんこ病に侵されやすい。 ・ その他胴枯病、紫紋羽病、萎縮病、黒脂病やカイガラムシ類、イラガ類、カミキリムシなどである。	
(4)維持管理の注意点	・ 生長が早く、枝の伸びが著しいので、樹形の維持が大変な樹種である。 ・ 根張りが悪く、傾斜木となって道路にはみ出ることが多いので、樹種転換が図られることが多い。	

23. ノルウェーカエデ		
(1) 樹木特性・特徴	・ ゆったりと育つ高木で、イタヤカエデよりは樹形は整っている。 ・ 大きく育てば 10m以上になるが、剪定がある程度効くのでコントロールしやすい。 ・ 太枝を強剪定をすると回復できないことが多いので注意が必要である。 ・ 海外ではたくさんの品種が作られており、わが国にも導入されている。その中では、枝がほうき状に伸びて広がりにくい‘コルムナーレ’という品種が街路樹には好適である。	
(2) 環境条件への耐性	・ 耐寒性、耐雪性、耐風性ともに強い。耐乾性もある程度ある。	
(3) 注意すべき病虫害	・ 本州以南ではテッポウムシの被害が甚大であるが、北海道では少ないようである。 ・ 食葉性の虫により葉に穴が空く程度である。	
(4)維持管理の注意点	・ 基本的にはイタヤカエデに準じる。 ・ イタヤカエデに比べれば、樹冠があまり広がらず、やや立ち性になる傾向がある。 ・ ‘コルムナーレ’という品種は、完全なホウキ立ちではないが、かなり細い樹冠を形成することから、街路樹としては有望である。	

24. ハウチワカエデ		
(1) 樹木特性・特徴	・ 葉の形が天狗の団扇に似ているので名付けられた。 ・ 造園的にはメイゲツカエデの名前の方がよく使われる。 ・ 秋の紅葉が特に美しい。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長はやや早い。日当たりは中庸樹であるが、やや陽性を帯びる。 ・ 多少湿気のある肥沃な深層土を好むが、やや乾燥したところでも生育可能である。 ・ 耐寒性、耐雪性あり。排気ガスには弱い。 ・ 根は浅根性で広がりは小さい。移植は容易である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ ケムシ類、イラガ、カイガラムシ類、うどん粉病、黒紋病、黒やに病など。 ・ 成木が突然死するケースが多く、何らかの根の傷害があると考えられる。	
(4)維持管理の注意点	・ 庭園樹としてよく使われる木であり、品のある樹形が和洋共に好まれている。 ・ 自然樹形が最も美しく、剪定は不要である。	

25. ハクウンボク		
(1) 樹木特性・特徴	・ 白い花をつけた様子が白い雲のようなので、白雲木という。 ・ 花は 6 月始めに開花し、緑色の果実は穂をなして垂れ下がる。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長は始めやや遅い。陰樹ではあるが、半日陰、陽地でも育つ。 ・ 適潤な深層土を好み、過乾燥地は不適である。土質はあまり選ばない。 ・ 耐寒性、耐湿性あり。 ・ 根は浅根性で、広がりは小さい。移植難易は中から難である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ あまりない。	
(4)維持管理の注意点	・ 自然樹形が整っており、北国の街路樹として好適である。 ・ 病虫害もほとんど心配がなく、維持管理の容易な樹種である。	

26. ハシドイ		
(1) 樹木特性・特徴	・ モクセイ科の落葉広葉小高木、高さ 10m くらいになる。日本各地、南千島、朝鮮に自生する。 ・ 開花は 6 月～7 月頃、初めは白く後に淡黄色となりコントラストが美しい。 ・ 果実の成熟は 9 月頃で翼のある面白い形のため、キンツクバネの別名もある。 ・ 樹皮はエゾヤマザクラに似ており、近縁種のムラサキハシドイ(ライラック)より、花期が遅い。 ・ ライラックはモクセイ科の落葉広葉低木、高さ 5m 位になる。和名はムラサキハシドイであるが、フランス語のリラまたは英語のライラックで呼ばれることが多い。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長は中程度であり、中庸樹であるが、日当たりの良いところでも育つ。 ・ 適潤な肥沃地を好むが、比較的土質は選ばない。 ・ 耐寒性、耐雪性あり、耐潮性ややあり。 ・ 根は浅根性で、広がりは小さい、移植は容易である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ 病虫害の被害は多くない。	
(4)維持管理の注意点	・ 樹形がコンパクトで、樹高も高くならないため、自然樹形で維持できる好適な樹種である。 ・ 病虫害の心配もほとんど不要で、維持管理は容易である。	

27. パラソルアカシア		
(1) 樹木特性・特徴	・ アメリカ原産であるが、イギリスを経由して日本に入ったため、イギリストゲナシニセアカシアの名がある。 ・ ニセアカシアから変異した分岐性の強い変種で、こんもりと傘状の樹形となるのでこの名がある。 ・ 花はきわめてまれに咲き、開花してもほとんど結実しない。 ・ ニセアカシアを台木に、地上 2.2m程度の所に高接ぎして苗木を作る。	
(2) 環境条件への耐性	・ 基本的にはニセアカシアが台木なので、これに準じる。 ・ ニセアカシアの台木に高接ぎしているため、接ぎ木部分が雪害に弱い。	
(3) 注意すべき病虫害	・ 枝が混んで通風が悪く、アブラムシが大発生することがある。 ・ テッポウムシ、カイガラムシ、クワカミキリなどで、病気としてはうどんこ病、たんそ病などが挙げられる。	
(4)維持管理の注意点	・ 接ぎ木によって作られていることを念頭におき、台芽を決して伸ばさないことが大切になってくる。 ・ 接ぎ木部分からの枝では、いつまでたっても建築限界をクリアできないので、そのうちの一本を幹に仕立て、新たな樹冠を形成させなければならない。	

28. ハルニレ		
(1) 樹木特性・特徴	・ 関東地方の大樹を代表するケヤキに対して、北海道を代表する大樹である。 ・ 樹形はケヤキの盃形とは異なり、主幹が通りやすく、成木では円形に近い整った姿となり、緑陰効果も大きい。 ・ 幹と枝との構成が美しいので冬姿も絵になる。 ・ 新緑、深緑、黄葉のそれぞれの時期における趣も深い。葉が開く前に紫色の花が 4 月下旬に咲き、6 月中旬に果実が成熟する。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長は早く、やや陽樹で、やや湿った肥沃な土地に最もよく育つが、多少の乾燥地でも良く育つ。 ・ 耐寒性、耐風性あり、潮害にはやや弱く、大気汚染に対しては中程度である。 ・ 根は浅根性で、広がりは大きい。移植は容易である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ 各種のケムシ類、褐斑病、紫紋羽病などである。	
(4)維持管理の注意点	・ 基本的には自然樹形で伸び伸びと育てる樹種であり、剪定は好まない。 ・ やむを得ず剪定する場合でも、自然樹形の良さを損なわないよう、十分注意が必要である。	

29. ヒメリンゴ		
(1) 樹木特性・特徴	・ リンゴの仲間であるが、より原種に近く、樹勢は旺盛である。 ・ 放任すれば小高木になってしまうので、整枝・剪定は不可欠である。 ・ 夏季の整枝・剪定は、樹勢を著しく衰えさせるので基本的にはやってはいけない。 ・ マルスと呼ばれる花を観賞するリンゴの系統や、アルプス乙女のような品種ものがいくつか導入されているようであり、名称は一定していない。	
(2) 環境条件への耐性	・ 病害虫に対する心配は強いが、それ以外は結構丈夫な樹種であるといえよう。	
(3) 注意すべき病虫害	・ 樹皮を侵す腐らん病、葉などを侵す黒星病、斑点落葉病、赤星病、モニリア病などがある。 ・ いわゆる毛虫(チョウやガの幼虫)が大量に発生して丸坊主になることがあり、発生初期の防除が必要である。	
(4)維持管理の注意点	・ ヒメリンゴの名前にだまされて、あまり大きくならない木だと勘違いすることもあるが、剪定によるコントロールを行わないと、たちまち小高木になってしまうので注意が必要である。 ・ 基本は果樹の管理であり、花をつけさせて実が成らないと鑑賞価値がなくなるので、整枝・剪定には注意が必要である。 ・ マルス類はそんなにどんどん大きくはならないが、適度の整枝は不可欠な作業となる。	

30. プラタナス		
(1) 樹木特性・特徴	・ 大きな葉と大きな丸い果実がぶら下がった姿などが組み合わさり、強い印象を与える。 ・ 白い造形物のような冬姿、春の明るい芽出し、夏の濃い緑陰、黄褐色に染まりかけた秋の黄葉などから、世界三大街路樹とされる。花は5月～6月に咲くが目立たない。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長が早く日当たりの良いところを好み、せき悪地でも耐え、低湿地から乾燥地までよく生育する。 ・ 生長が速いので、若木から十分に根張りを充実させ、強風に耐えるように育てる。 ・ 耐寒性、耐寒性、耐湿性、環境に対する適応性があり、大気汚染にも強い。 ・ 根は中間性で、広がりは大きく、若木での移植は容易である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ テッポウムシの被害を受けやすいので、発生期に点検・見回りを行い、早期に対処する。 ・ このほかには、イラガ、ケムシ類、カミキリムシ、ツノロウムシやたんそ病、褐斑病、胴枯病、紫紋羽病などである。	
(4)維持管理の注意点	・ 極めて生長が旺盛なため、その特徴を生かせる広幅員街路に植栽したい。 ・ 長命な樹木なるがゆえに、植栽する場所の選定は慎重にする必要があり、それが後々の維持管理にも大きく影響することを念頭におく必要がある。	

31. ポプラ		
(1) 樹木特性・特徴	・ クロポプラはヨーロッパ、西アジア、シベリア原産。 ・ 北海道の景観に欠かせないもののひとつで、北大のポプラ並木が有名。 ・ 雌雄異株で、ほうき状の樹形となるのは雄の木で、雌の木はやや広がる。 ・ 改良ポプラはヨーロッパクロポプラとアメリカクロポプラの雑種の総称で、多くの系統がある。 ・ 6月に綿毛の付いた種を大量に飛散させ、北国の風物詩ともなっているが、迷惑がられることが多い。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長はきわめて早いが、やや短命である。日当たりの良いところを好み、耐陰性はない。 ・ 土壌に対する適応性は広く、とくに湿地に対して強く、水辺などの植栽に向く。 ・ 耐寒性はあるが、風に弱い。大気汚染には強い。 ・ 根は浅根性で広がりが大きい。若木の移植は容易である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ マイマイガ、シャチホコ類、カイガラムシ類、紋羽病、さび病など。	
(4)維持管理の注意点	・ かつては早期緑化樹種としてもてはやされたこともあったが、生長があまりにも旺盛で、現在では迷惑がられることが多い。 ・ 風倒や落枝の危険性が高く、剪定にも危険を伴うので、特に貴重なもの以外は更新されている。	

32. ヤチダモ		
(1) 樹木特性・特徴	・ 北海道内に自生する落葉広葉樹で、札幌市内では北部の水分条件の豊かな区域に特徴的である。花は5月に咲き、雌雄異株、雌花は帯緑紫、雄花は帯紫褐である。 ・ 北国の街路樹として耐湿地性の特徴を活かし、土壌湿度の高い土地柄を強調するのに向く。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長はやや早く、中庸樹だが、日当たりの良いところでもよく育つ。 ・ 肥沃な適潤～やや湿地なところを好むが、ある程度乾燥にも耐える。 ・ 耐寒性、耐風性、耐雪性、耐潮性、耐湿性あり。大気汚染にはかなり強い。 ・ 根は深根性で、広がりは中程度、若木のうちは移植は容易である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ あまりない。	
(4)維持管理の注意点	・ 極めて強健な樹種であり、剪定にも耐えるので街路樹には向いていると考えられるが、都会的なイメージを持っていないためか、街路樹としての利用は少ない。 ・ 樹高が高くなるので、架線等の制約がある場所では使いにくいが、制約のない場所ではこの木本来の雄大な樹形が楽しめる。 ・ 病虫害の心配もほとんどなく、維持管理面では容易な樹種である。	

33. ヤマボウシ		
(1) 樹木特性・特徴	・ 中木で、普通は5m程度、せいぜい7,8mにしか大きくならない。 ・ 花には花弁がなく、苞と呼ばれる葉の変形したものが花弁状に見え、真っ白で美しい。苞の幅の広さにはかなり変異があり、幅の広い方が美しい。 ・ 近年淡いピンクの苞を着ける‘サトミ’という品種が出回ってきており、こちらの方が将来性は高い。 ・ 樹形はこんもりとコンパクトで、剪定のいらない樹形である。 ・ 本州方面で近年人気の高いハナミズキは、札幌では満足な生育を示さないので植栽は出来ないが、ヤマボウシは耐寒性も強く花つきもよいので、生活道路などでは好適な素材である。	
(2) 環境条件への耐性	・ 適潤で肥沃な土壌を好み、やせ地では生育があまりよくない。 ・ 耐寒性は札幌では問題ないが、耐風性にはやや欠けるようである。	
(3) 注意すべき病虫害	・ あまりない。	
(4)維持管理の注意点	・ 自然樹形で鑑賞するものなので、基本的には無剪定で維持管理する。 ・ 樹高の割に樹冠が大きいので、建築限界に引っかからないような植樹帯の幅員の広い場所が望ましい。	

34. ヤマモミジ		
(1) 樹木特性・特徴	・ イロハモミジの変種であり、紅葉が美しく、ハウチワカエデなどとともに秋の道内の山を彩る樹種のひとつである。 ・ 花は5月に咲き淡紅色、実は房状になって赤くなり美しい。秋には紅葉する。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長はやや早く、中庸～陽樹であり、日当たりの良いところでも、半日陰でも良く育つ。 ・ 適潤～弱湿性で肥沃な土地を好むが、過乾燥地や低湿地は好まない。 ・ 土質はあまり選ばない。 ・ ひ弱そうな感じのする木ではあるが、耐寒性は大変強く、耐潮性や大気汚染にはやや弱い。 ・ 根は浅根性で、広がりは小さい、移植は容易である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ カイガラムシ類、イラガ類、カミキリムシ、うどんこ病、胴枯病、紫紋羽病、萎縮病、黒脂病などである。	
(4)維持管理の注意点	・ 街路樹としては完全に無剪定で、自然樹形のまま楽しむことのできる樹種である。 ・ ただし、放任したままでは枝が混みすぎ、湿雪による枝折れを引き起こしやすい欠点があるので注意が必要である。	

35. ユリノキ		
(1) 樹木特性・特徴	・ 北アメリカ東南部原産で花はユリよりもむしろチューリップに似ている。葉がはんてんに似ているので、ハンテンボクともいう。 ・真直ぐに伸びた幹に整然とした枝の配分が端正な印象を与え、ハンテンに似た大ぶりの葉がおおらかな風情をかもし、緑陰効果も大きい。 ・ 縦に溝のある黒褐色の幹肌と、新緑の明るい葉色、秋のバターイエローの黄葉の対比が美しく上品である。	
(2) 環境条件への耐性	・ 生長はやや早い、日当たりを好み、耐陰性はない。 ・ 滝潤な壌土質の土地を好むが、せき悪な乾燥地以外であれば生育する ・ 土質はあまり選ばない。 ・ 耐寒性、耐雪性はあまりない、耐潮性はない、寒風に弱い。 ・ 根は深根性で、広がりは中程度、移植の難易は中程度である。	
(3) 注意すべき病虫害	・ カイガラムシ、たんそ病、斑点病など。	
(4)維持管理の注意点	・ 自然樹形ではあまりに木が大きくなりすぎ、剪定によって樹形の維持を図るには、かなり高度なテクニックが必要となるため、あまりお奨めはしかねる樹種である。 ・ 東京などでは立派な街路樹が見られるが、今後札幌でユリノキの街路樹を育成できるような街路が生まれる可能性は少ないものと考えられる。	

36. ルブルムカエデ		
(1) 樹木特性・特徴	・ ノルウェーカエデほど枝が暴れないで、こぢんまりと収まりがつく。 ・ 芽出しが赤い品種もあり、紅葉はとにかく真っ赤で目立つことから、一年に二度楽しむことができる。 ・ ‘モルガン’という品種が多く出回っており、特に紅葉が美しい。	
(2) 環境条件への耐性	・ 耐寒性、耐雪性、耐風性ともに強い。耐乾性もある程度ある。 ・ 枝の分岐がもろく、湿雪害を受けることがある。	
(3) 注意すべき病虫害	・ 本州以南ではテッポウムシの被害が甚大であるが、北海道では少ないようである。 ・ 食葉性の虫により葉に穴が空く程度である。	
(4)維持管理の注意点	・ 基本的にはイタヤカエデに準じる。	

主な病虫害

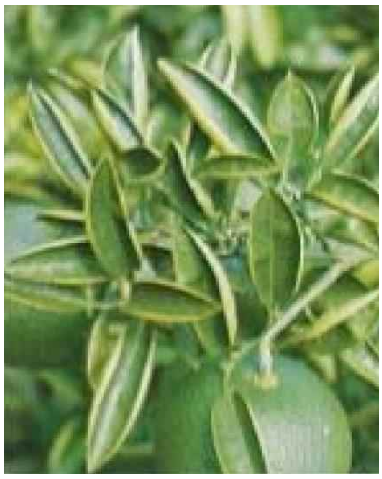
（１）病気

すす病		
罹病樹木	・ツバキ、サザンカ、カシ類、タケ、マツなど	
主な病徴	・子のう菌類のすす病菌属などの病原菌に起因して、植物の葉や枝の表面に寄生して、煤（すす）がついたようになる病気である。	
主な伝搬方法	・落葉または常緑樹の罹病部に形成される子のう胞子が第一次伝染源になる。	
主な防除法	・日当たりや風通しを良好にして、陰湿な環境の改善を図る。 ・カイガラムシ、アブラムシ類を防除する。 ・冬期には農薬取締法に基づき登録された薬剤を散布する。	

葉ふるい病		
罹病樹木	・マツ類	
主な病徴	・夏、針葉に淡褐色の斑点ができ、針葉の枯れが進み激しく落葉する。 ・激害木では、5 月頃には緑の葉がほとんど見られない状態になる。	
主な伝搬方法	・枯死葉上に黒色楕円形で中央部に縦に割れ目のある菌体が作られる。 ・しばしば横の暗色線が入る。	
主な防除法	・樹勢衰退時に発病しやすいので、生育環境を改善し樹勢回復をはかる。 ・病落葉はこまめに集めて焼却する。 ・梅雨期から夏の降雨前後を重点に薬剤を散布し、蔓延を防止する。	

さび病		
罹病樹木	・ツツジ類、ヤナギ類、ボケ、ビャクシン、ナラ類、マツ類、モミ類、ポプラ、サクラ、ウメ、リンゴ、ナシなど	
主な病徴	・さび菌類の病原菌により、いろいろな広葉樹の葉の表面や裏、マツなどの針葉に黄色（さび色）の粉状物または、粉が詰まったのう状物が現れ、その部分の壊死が起こる病気である。	
主な伝搬方法	・多くの種は異種寄生性であり、中間宿主を通して伝染する。	
主な防除法	・中間宿主がある場合は、それを除去して感染の頻度を低くする。 ・病枝葉が翌年の伝染源となるので除去する。 ・被害が激しい場合は、伝染時期に農薬取締法に基づき登録された薬剤を散布する。	

うどんこ病		
罹病樹木	・ハナミズキ、サルスベリ、カシ類、マサキ、カエデ類など	
主な病徴	・白渋（しらしぶ）病ともいい、植物の葉の表面、裏面または両面にうどん粉をまいたように病原菌の菌糸で覆われる病気。	
主な伝搬方法	・多くの種類は、秋に病斑部に微細な小黒点を形成し、その中の子のう胞子が翌春の第一次伝染源になる。	
主な防除法	・越冬胞子が形成されている落葉などを焼却して処分することにより第一次伝染源を除去する。 ・常菌糸で越冬する常緑樹では、被害の激しい感染部の除去、およびその時期に農薬取締法に基づき登録された薬剤の散布が有効である。	

萎縮病		
罹病樹木	カエデ類など	
主な病徴	・春先から発生して枝・幹を侵し、その侵された部分から急に萎れる。	
主な伝搬方法	―	
主な防除法	・防除期は早春。 ・病落葉の除去焼却、キノンドー水和剤、オキシンドー水和剤を散布する。 ・薬剤散布量は病気の程度によって異なるため、状況を見極めて散布量を決定すること。	

黒脂病		
罹病樹木	・カエデ類	
主な病徴	・７～８月頃、葉の表面に少し膨れた円形の黒色病斑ができる。 ・紅葉期に病斑の周囲が緑色になる。	
主な伝搬方法	―	
主な防除法	・防除期は開葉前。 ・病落樹の除去焼却、キノンドー水和剤、オキシンド 一水和剤を散布する。	

たんそ病

罹病樹木	・さまざまな樹木	
主な病徴	・炭疽病菌属に属する菌類によって起こる病気で、主に葉に発生するが、若い枝や葉柄、果実にも発生する。	
主な伝搬方法	・炭疽病菌の多くは宿主へ侵入後、表皮下の狭い範囲で潜在的に生存し続け、宿主細胞の老化や何らかの原因で樹木の活力が低下すると発病する場合が多い。	
主な防除法	・冬の間に病葉や病枝を切除して焼却等の処分をする。 ・被害が激しい場合は、伝染時期に農薬取締法に基づき登録された薬剤を散布する。	

とうそう病

罹病樹木	・ポプラ類、ヤツデ、ミズキ類、マサキ、ケヤキ、ハゼなど	
主な病徴	・子のう菌類のそうか病菌属などの寄生によって、ポプラ類では葉に白色の小斑点が、ヤツデでは褐色や灰白色の大きいカサブタ状の病斑が、ミズキ類、マサキケヤキでは中央に穴があいた褐色の小斑点が、ハゼ、ポプラ類では黒い小斑点が形成される病気である。	
主な伝搬方法	・常緑樹では病葉が木に着生したまま越冬し、その部分に形成される新たな分生子が第一次伝染源になり、その後分生子によって伝染が拡大する。 ・落葉樹では、病原菌の越冬場所等明らかでない。	
主な防除法	・毎年被害が出る場合は、落葉の焼却を行い、着生している罹病葉は切除して処分する。 ・梅雨期に農薬取締法に基づき登録された薬剤を散布する。	

黒星病

罹病樹木	・ヒメリンゴ、バラ、ウメ、モモなど	
主な病徴	・５月～９月頃まで、葉、葉柄、幼茎枝、つぼみ、果実など全身に黒い円形の斑紋が出る。 ・葉に出た病斑の中央部は灰黒色になり、周辺部が黄変する。被害を受けた葉は容易に落葉する。	
主な伝搬方法	・降雨が多い年や多雨期に発生が多い。	
主な防除法	・被害を受けた落葉、落枝等は、翌年の発生源になるので焼却処分する。 ・ジマンダイセン水和剤やマネージ乳剤を発病初期に定期的に散布する。 ・果実への被害予防には袋掛けが有効である。	

赤星病		
罹病樹木	・ヒメリンゴ、ボケ、ナシ、カイドウなど	
主な病徴	・広葉樹側では、葉の表面に橙～赤色の円形病斑を生じ、裏面には 6 月頃に太く短い毛状の菌体が群生する。病葉はやがて黄変、落葉する。果実も侵し、病斑部から腐敗が進む。 ・ビャクシン類では、さび病と呼び、葉や枝の患部から、4～5 月頃の湿潤時に黄橙色のゼリー状の菌体を生じる。	
主な伝搬方法	・さび病の仲間で、病原菌はビャクシン類との間を行き来しており、両方の樹種が近接して存在しないと生活できない。	
主な防除法	・被害の発生しやすい樹種とビャクシン類を近接して植栽しない。 ・薬剤を散布する。	

斑点病／褐斑病／斑紋病／葉枯病		
罹病樹木	・さまざまな樹木	
主な病徴	・特定の糸状菌群によるものではなく、葉に円形、角形、あるいは不整系の斑点をつくり、場合によってはそれらが拡大して葉全体の枯死を起こすものの総称である。	
主な伝搬方法	・落葉樹の場合は落葉上で、常緑樹の場合は木に付いた病葉上で、子のう世代または分生子世代のまま病原菌が越冬し、翌春の第一次伝染源になるものが多い。	
主な防除法	・病葉、病新梢をつみ取り、病落葉は焼却、土中埋没や堆肥にする。落葉が激しい場合は、伝染時期に農薬取締法に基づき登録された薬剤を散布する。 ・毎年発生する場合では環境条件の改善を図る必要がある。	

がんしゅ病		
罹病樹木	・マユミ、ビワ、モモ、モミ、カラマツなどで被害が大きい	
主な病徴	・主に幹や太い枝において、樹皮が紡錘形となり暗褐色に優され、比較的ゆっくりと、部分的に形成層が壊死し、その部分を中心に凹みができる。	
発生要因	・何らかの原因で樹木の樹勢が低下すると、枝や幹の傷口に寄生した病原菌により発病する。	
主な防除法	・植栽直後の樹木は活着と樹勢の回復を早期に図る。 ・枯枝や損傷部は早めに切除し、傷口に農薬取締法に基づき登録された薬剤を塗布する。切除した枝や幹は伝染源となるので、焼却処分する。	

胴枯病		
罹病樹木	・カエデ類、モクセイ類、サクラ類、イチョウ、カキノキ、ヒトツバダゴ、ニオイヒバなど	
主な病徴	・病原菌が枝や幹に寄生し、罹病部から上部を枯らすため、胴枯病とよばれる。 ・枝や幹は、赤褐色ないしは茶褐色から黒褐色などに変色して陥没した病斑をみせる。	
発生要因	・何らかの原因で樹木の樹勢が低下すると、枝や幹の傷口に寄生した病原菌により発病する。	
主な防除法	・初期病斑では、罹病部を健全組織を含めて完全に取り除き、よく乾燥させた後で農薬取締法に基づき登録された薬剤を塗布する。 ・切除した樹皮や枝、幹は伝染源となるので焼却処分する。	

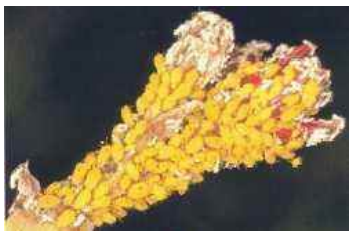
てんぐす病		
罹病樹木	・サクラ類、キリ、モミ、アスナロ、ツツジなど多くの樹種に発生	
主な病徴	・多くの樹種に発生する病気で、罹病部から多くの細い枝をほうき状に出し、天狗の巣のような症状を呈することから「てんぐす病」といわれる。	
発生要因	・病原菌の種類は樹木の種類によってそれぞれ異なるが、子のう菌類のタフリナ属の寄生によるもの、ファイトプラズマの寄生によるもの等がある。	
主な防除法	・病原菌は、病枝の中で越冬して開葉と同時に進展するため、葉が展開する前に被害部を切除し、焼却して伝染源を除去する。 ・傷口には、農薬取締法に基づき登録された癒合剤を塗布する。	

こぶ病		
罹病樹木	・サクラ類、フジ、マツ類など	
主な病徴	・枝や幹が病原菌に侵され、その部分の細胞が肥大して大きく膨れ、こぶ状になる病気の総称である。	
発生要因	・マツのこぶ病は、さび菌の寄生によって、枝や幹に大きなこぶができる。中間寄生はナラ、カシ類である。	
主な防除法	・こぶは今後の感染源になりうるので除去するが、細い枝の場合は枝ごと除去する。 ・切り口に、農薬取締法に基づき登録された薬剤を塗布する。	

紋羽病		
罹病樹木	サクラ、ツツジ、ケヤキ、カエデ、ポプラなど	
主な病徴	・根を腐らせ、枯死させる。 ・紫紋羽病、白紋羽病、黄色紋羽病などがあり、名前のとおり根にからみつく菌糸の色が異なる。 ・紫紋羽病は、菌糸が地上部まで網目状に広がり、やがてフェルト状になる。	
主な伝搬方法	・病原菌は、隣接木の根へ接触伝播し、被害は徐々に広がる。 ・被害木の根や地際部には、糸状～ひも状の菌糸が網目状にからみつく。	
主な防除法	・枯死木は、根片を残さぬようていねいに掘り取る。 ・土壌が過湿にならないよう排水に注意する。	

（２）害虫

カイガラムシ類		
主加害樹	・イチイ、イチョウ、イタヤカエデ、イヌエンジュ、ナシ、サクラ類、ヤナギなど	
加害形態	・幹や枝に寄生し、樹勢を衰えさせる。 ・すす病を併発させる。	
虫の形態	（1）ツノロウムシ：年１回発生、成虫で越冬。成虫は乳白色円形のろう物質に覆われ、角状突起がある。 （2）カメノコロウムシ：年１回発生、成虫で越冬。幼虫の周縁には、顕著な星状突起がある。 （3）ルビーロウムシ：年１回発生、成虫で越冬。貝殻はあずき色をしている。 （4）イセリアカイガラムシ：年 3～4 回発生、成虫または幼虫で越冬。 （5）サルスベリフクロカイガラムシ：年 3～4 回発生、卵または幼虫で越冬。	
主な防除法	・カイガラを歯ブラシ等で剥ぎ落とす。 ・幼虫期に薬剤を散布する。 ・冬季にマシン油乳剤を散布する。	

アブラムシ類		
主加害樹	・アブラムシには多くの種類があり、ほとんどの植物に発生し加害する。	
加害形態	・主として新梢や新葉、花蕾などに群がり、汁液を吸収する。そのため葉が巻いたり虫えいができたり、萎ちょう枯死するなど害が大きい。	
虫の形態	・年間の大部分は胎生する雌虫で繁殖し、何回となく繁殖を繰り返すので増殖が著しい。 ・越冬は卵態のものや胎生雌虫で行うものもある。	
主な防除法	・アブラムシ類はそれぞれ習性があり、植物の種類や寄生するアブラムシの種類によって被害程度が異なるので、各々の特性に応じて防除の要否や防除法を決定する。 ・一般には発生初期に防除する。	

ハバチ類		
主加害樹	・アカエゾマツ、ヨーロッパトウヒ、プンゲンストウヒなど	No image
加害形態	・集団で針葉を加害し、産卵は針葉内に行われるので、産卵された針葉は退色する。	
虫の形態	・マツノキハバチ、マツノミドリハバチ、マツノクロハバチなどがおり、マツノキハバチは年１化、マツノミドリハバチは年３化、マツノクロハバチは年２化と言われている。	
主な防除法	・産卵された新葉や集団幼虫を取り除く。	

コガネムシ類		
主加害樹	・サクラ類、ヤナギ類、トウヒ類、イチイなど	
加害形態	・幼虫が苗木や根菜類の根を食害し、成虫は広葉樹や果樹などの葉を食害する。	
虫の形態	・成虫の発生は概ね６月から始まり、７月に最盛期となる。	
主な防除法	・被害株を見つけたら、その周りを堀り、幼虫を捕殺する。 ・成虫の電撃殺虫器などによる捕殺。	

イラガ類		
主加害樹	・サクラ、ウメ、ヤナギ、カエデ、サルスベリなど	
加害形態	・多種の樹木の葉を食害する。 ・幼虫は刺毛（しもう）をもつ不快害虫で、人体への二次被害があるため注意が必要である。	
虫の形態	・幼虫は成熟すると体長 24mm に達し、頭部は淡褐色、胴部は緑色で前後に暗紫色の模様がある。 ・体表には刺毛があり、これに触れると激痛が走る。	
主な防除法	・冬に枝の又などの繭を駆除する。 ・農薬取締法に基づき登録された農薬を散布する。	

シャチホコ類		
主加害樹	・サクラ、ウメ、カイドウ、ナシ、リンゴなどバラ科植物	
加害形態	・サクラニときどき異常発生し、葉を食い尽くすことがある。	
虫の形態	・幼虫は成熟すると体長約 50mm に達する。 ・頭部は黒色、胴部ははじめ赤褐色であるが、成長すると紫黒色に変わり、黄白色の長毛を密生させる。	
主な防除法	・発生初期に葉、枝を切断し処分する。 ・農薬取締法に基づき登録された農薬を散布する。	

マツノシンクイムシ類		
主加害樹	・クロマツ、アカマツ、ゴヨウマツなど	
加害形態	・マツの新梢や球果を食害する。	
虫の形態	(1) マツノシンマダラメイガ：年 2 回発生し、幼虫で越冬。幼虫は新梢や幹に潜入し、体長 25mm、胴部は赤褐色でゴマ粒状の斑点がある。 (2) マツヅアカシンムシ：年 2 回発生し、蛹で越冬。幼虫は体長 12mm、胴部は淡黄褐色である。 (3) マツツマアカシンムシ：年 2 回発生し、蛹で越冬。幼虫はオレンジ色。	
主な防除法	・被害の発生している枝を切除する。 ・幼虫期に薬剤を散布する。	

ダニ類		
主加害樹	アズキナシ、カツラ、シナノキ類など	
加害形態	・ハダニ類は汁液を吸収し、葉緑素を破壊するので、被害株は生育が衰える一方、葉や花にカスリ状の小斑点を生じたり、変色したりするので観賞価値を著しく損なう。	
虫の形態	・一般に高温乾燥時に繁殖は旺盛になり、卵から成虫になるまでの期間は短い場合は６～１０日くらいで、メス１頭あたりの産卵数も平均１００卵に及ぶ。	
主な防除法	・防除のコツは早期発見、早期防除である。 ・多発時は薬剤の効果が上がりにくい。したがって、常に下葉や目につきにくい部分での発見に努め、早めに十分薬剤がかかかるように防除する。	

マツカレハ（幼虫：マツケムシ）		
主加害樹	・アカマツ、クロマツ、ゴヨウマツ、ヒマラヤスギ、カラマツ、モミ、トウヒなどの針葉樹	
加害形態	・針葉を食害し、終令幼虫の食害量は極めて大きいため、大量発生すると樹勢が低下する。 ・幼虫は刺毛（しもう）をもつ不快害虫で、人体への二次被害があるため注意が必要である。	
虫の形態	・幼虫は成熟すると体長 60mm に達する。 ・頭部は黒色、胴部は銀色ないし黄褐色の斑紋がある。	
主な防除法	・秋から冬にかけて幹にコモを巻き、越冬する幼虫をコモごと焼却する。 ・6～7 月に作られた繭や 8～9 月に針葉に産み付けられた卵塊を除去する。 ・農薬取締法に基づき登録された農薬を散布する。	

クスサン（幼虫：シラガタロウ、クリケムシ）		
主加害樹	・クスノキ、サクラ類、イチョウ、ケヤキ、サルスベリ、クヌギ、クリ、トチノキ、カシ類など	
加害形態	・雑食性でクスノキ、イチョウ、サクラ類など様々な樹種の葉を食害する。 ・大量発生して食害が激しくなると樹木全体の葉を食い尽くすため、樹勢が低下する。	
虫の形態	・成虫は 100㎜ 以上の大型で、羽の色は黄褐色。 ・幼虫は成熟すると体長 80㎜ にも達し、白色の長毛に覆われる。	
主な防除法	・夏季に繭を取り除いたり、冬期に卵塊を除去する。 ・ふ化直後の幼虫は群生するため、葉を切除する。 ・農薬取締法に基づき登録された農薬を散布する。	

コスカシバ		
主加害樹	・サクラ類、ウメ、モモ、リンゴ、スモモなど	
加害形態	・幹の樹皮下に穿孔し、虫糞の混じった半透明のヤニを輩出する。 ・被害木は形成層を食害され、樹勢が低下する。 ・穿孔した部分から胴枯病菌や腐朽菌の侵入を受けやすくなる。	
虫の形態	・幼虫は成熟すると体長 25㎜ に達する。 ・胴部は乳白色で頭部は淡褐色である。 ・成虫はハチのように透明な翅をもつ。	
主な防除法	・若枝、枝、球果を切除し処分する。 ・幹を切開して幼虫を除去する。 ・農薬取締法に基づき登録された農薬を散布する。	

コウモリガ（幼虫：テッポウムシ）		
主加害樹	・ヤナギ類、ポプラ類、ハンノキ、シラカンバ、コナラ、クヌギ、クリ、カシ類などの広範囲の広葉樹と針葉樹	
加害形態	・多犯性で幹に穿孔して加害する重要害虫である。 ・被害木は枯損や風折れを受けやすくなる。	
虫の形態	・成虫は開張 50～100㎜ 程度。体は茶褐色で前翅には灰緑色の雲状紋と小黒紋がある。 ・幼虫は成熟すると体長 80㎜ に達する。 ・頭部は褐色で、胴部は黄白色である。	
主な防除法	・初期幼虫期に農薬取締法に基づき登録された農薬を散布する。	

クワカミキリ		
主加害樹	・クワ、ポプラ類、ヤナギ類、カシ類、ケヤキ、イチジクなど	
加害形態	・幼虫が幹、枝の材部に穿孔することで、樹勢が低下したり、場合によっては枯死に至る。 ・加害部は地上 0.7～2m 付近に多い。 ・成虫が枝をかじることによって枝枯れが生じる。	
虫の形態	・成虫は体長 35～45mm で体色は黒褐色であるが、全体的に黄褐色の微毛を密生するため黄褐色に見える。 ・幼虫は成熟すると体長 70mm に達し、胴部は少し赤みを帯びた乳白色である。	
主な防除法	・成虫を捕殺する。 ・農薬取締法に基づき登録された農薬を散布する。	

マイマイガ（幼虫：ブランコケムシ）		
主加害樹	・サクラ類、コナラ、ハンノキ、クリ、カラマツなどバラ科、ブナ科の樹種	
加害形態	・雑食性（広葉樹から針葉樹まで 300 種以上）で大型の幼虫が葉を食害する重要害虫である。 ・しばしば大発生することがあり、大きな被害となることがある。	
虫の形態	・幼虫は背面に目立つ 2 列の点が並び、成熟すると体長 60mm に達する。 ・体には刺毛があり、刺されると少し痛いが、毒は1齢幼虫しかない。	
主な防除法	・幼虫を捕殺する。 ・樹幹の卵塊を除去する。 ・農薬取締法に基づき登録された農薬を散布する。	

■参考文献

本マニュアルについて、参考とした文献は以下のとおりである。

- 街路樹剪定ハンドブック（日本造園建設業協会）
- 街路樹の倒伏対策の手引き（国土技術政策総合研究所資料）
- 街路樹特性リスト（札幌市）
- 平成１５年度版 道路緑化技術資料（旭川開発建設部）
- 宮城で見られる緑化木・樹木の病害虫（宮城県）
- 樹木の病虫害（茨城県林業技術センター）
- 作物病害虫図鑑（福岡県病害虫防除所）

なお、他所での使用の際には、一切の責任を負わない。

道道帯広停車場線（帯広市：西２条通）十勝総合振興局　帯広建設管理部ＨＰより

街路樹点検マニュアル

平成３０年２月

北海道建設部 建設政策局 維持管理防災課（本庁舎１０階）
〒060-8５88　北海道札幌市中央区北３条西６丁目
ＴＥＬ　（０１１）２３１－４１１１　内線（２９－２７３）
ＦＡＸ　（０１１）２３２－１１６０
Ｅ－Ｍａｉｌ：kensetsu.kenbou@pref.hokkaido.lg.jp